

告 辞

学長 上野 正雄

明治大学で学び、今日、卒業の日を迎えた339名の皆さん、卒業、修了、誠におめでとうございます。

皆さんが今、ここに立つことができているのは、学業に真摯に向き合い、仲間と励まし合い、幾多の課題を乗り越えてきた皆さんそれぞれの努力の賜物にほかなりません。私は心からその努力を称えたいと思います。

また、今日まで皆さんを支えてこられたご家族をはじめ、多くのご関係の方々にも、心からお祝いと感謝を申し上げます。

さて、皆さんは今日、それぞれの人生の新たな一步を踏み出します。社会に出る人、さらに学問を究める人、あるいは新たな挑戦を始める人もいるでしょう。

その皆さんに、卒業にあたり、三つのことをお伝えしたいと思います。

第一に、答えを出すことだけではなく、良い問いを持つことを大切にしてほしいということです。

大学では、さまざまな知識を学び、問題に対する答えを求めてきたことでしょう。しかし、社会に出れば、何が問題なのか、何を目指すべきなのか、そのこと自体が問われる場面が増えていきます。

「なぜ、こうなっているのだろうか」

「本当にこれでよいのだろうか」

「もっと良い方法はないだろうか」

こうした問いを持つことから、新しい発見や挑戦が始まります。

人生において大切なのは、いつも正しい答えを持っていることではありません。時代が変わり、自分自身が変われば、答えもまた変わります。だからこそ、皆さんには、簡単に答えの出ない問いを恐れることなく、自分自身の問いを持続してほしいと思います。

それは、明治大学の建学の精神である「権利自由、独立自治」にも通じるものです。自ら考え、自ら判断し、自らの道を切り拓く。そのためには、まず自ら問いを立てることが必要です。

第二に、「他者」との出会いを大切にほしいと思います。

私たちは、自分一人の力だけで成長していくことはできません。

自分とは異なる考えを持つ人。自分より優れた力を持つ人。時には、自分の考えに疑問を投げかけてくる人。そうした人との出会いによって、初めて気づく自分の可能性があります。「あの人と出会ったから、ここまで来ることができた」

人生を振り返ったとき、そう思える人がいることは、とても幸せなことだと思います。だからこそ、皆さんには、自分と異なる人を遠ざけるのではなく、互いに刺激を受け、時には競い、時には支え合いながら、自分を高めていってほしいと思います。

そして、いつの日か、「あなたと出会えたから、一步前に進むことができた」と相手に思ってもらえるような人になってください。

人と人との出会いには、互いの可能性を引き出す力があります。良い意味での切磋琢磨を、これからも大切にしてください。

第三に、皆さんの力を、社会をより良くするためにも使ってほしいと思います。

これから皆さんが歩いていく社会には、学生時代には経験したことのないような不合理なことや、理不尽なことが、決して少なくありません。努力したからといって、必ず報われるとは限りません。正しいことが、いつも正しく評価されるとも限りません。

しかし、だからといって、社会は捨てたものではありません。社会は、そこに生きる一人ひとりの営みによって、少しずつ変えていくことができるからです。

人生百年と言われる時代です。皆さんには、これから数十年という長い時間があります。その長い時間を、自分自身の幸福のためだけでなく、次の世代が少しでも生きやすい社会をつくるためにも使ってほしいと思います。

不合理なものに出会ったとき、「仕方がない」と諦めるのではなく、「なぜ、こうなっているのか」と問いを持ってください。

そして、その問いを胸に、他者と学び合い、競い合い、力を合わせながら、一歩ずつ社会をより良い方向へ動かしていってください。

明治大学が掲げる「個を強くする」という言葉は、決して自分一人の力を強くするという意味だけではありません。

自らの可能性を広げ、他者の可能性も引き出し、そして社会に働きかけていく。そのような「強い個」であってほしいと私は願っています。

今日この日は、皆さんの学生生活の終わりであると同時に、新しい人生の始まりです。どうか、良い問いを持ち続けてください。

良き人と出会い、互いに高め合ってください。

そして、皆さん自身の手で、より良い社会をつくってください。

時代がいかに大きく変化しようとも、皆さんが本学で培った学びと、共に過ごした仲間との絆は、これから先の人生を照らす確かな道標となります。 明治大学で学んだという誇りを胸に、皆さんと、そして社会の新しい未来を切り拓いていってください。

皆さんがこれから歩む長い人生が、豊かで実り多きものとなることを心から願い、卒業にあたっての私の告辞といたします。

皆さんの輝かしい門出を心より応援しております。